

1. 研究主題

協働することを通して、意欲的に学ぶ子どもの育成 —算数科の授業を中心にして—

2. 主題設定の理由

本校では、3年間「読みの力を身につけ、使える力を育む、国語科授業の創造」を研究主題に、説明的文章の指導を通して「わかって」「使える」国語科の研究を進めてきた。取り組みの中で、説明的文章の系統的な指導について学ぶことができ、学校として各学年に応じた系統立った指導体系を作ることができた。子ども達も低学年では「問い」と「答え」を見つけ比べながら読む、中学年では要点をまとめる、高学年では文章構成図や要約・要旨の捉え方などができるようになってきた。

しかし、「全国学力・学習状況調査」「標準学力調査」の結果から、算数B問題における、

- ・情報を整理し、筋道を立てて考え、条件に当てはまるものを判断する（書く）。
- ・選択が正しい理由を書く。
- ・複数の内容を関係づけた上で、自分の考えを具体的に書く。
- ・「活用」の問題の正答率が低い。

という課題が見えてきた。また、学習や普段の生活の中でも自分の考えを表現したり、伝え合ったりすることが苦手な場面が多く見られる。

新学習指導要領では、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力が求められている。また、学習の基盤となるのは言語に関する能力であることから、各教科等で言語活動を充実しなければならない。事実を正確に理解し、的確でわかりやすく伝える技能を伸ばしたり、解釈や説明、評価や論述する力を伸ばしたりするような言語活動が必要である。言語活動は、話すことや聞くこと、書くこと、読むことからなるが、「よりよく言語化できる力」の育成にあるといえる。算数科においては、「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」とされている。

そこで、共に関わり合いを通してめあてに向かって協力し、解決していくことが大切と考え、本研究テーマとした。

今年度は、1年目として算数科における系統だった指導が行えるよう「授業のスタンダード」を確立するために、今まで研究を重ねてきたことを取り入れて実践を積み、よりよい授業作りを目指していく。協働するために、どのような関わり方が効果的か、授業の中にどのように取り入れていくかをふまえて研究を行っていききたい。そして、お互いの関わり合いを深めることで、意欲的に取り組む子どもたちを育てていきたい。

3. 研究仮説

算数科の授業において、以下のようなことを考えて授業を展開すれば、基礎的・基本的な力を身につけ、意欲的に学習に取り組む児童が育つであろう。

- ・各学年、各教材において、身につけさせなければならない内容を確認する。
- ・協働して、課題解決に取り組む学習課題を設定する。
- ・基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる授業づくり

さらに、活用場面を組み込んだ授業を展開することにより、生活や学習に活用しようとする態度が身に付けることができるであろう。